



ふくおか [Good] 農業人100

主な農産物 / 温州ミカン(普通温州主体)、中晩柑、たけのこ

# 久木原 美成さん

(42歳)

(営農地 / 八女市黒木町田代、  
熊本県山鹿市(出作地))

## 産地をリードする若きリーダー

《就農のきっかけ》

### いずれは就農と思っていたら

農家生まれの久木原さん。漠然といずれは家業である農業を継ぐものと考えていました。農家を継ぐにしても、技術的なことはよくわからない。せめて家業の主力であるかんきつ栽培について技術的に身につかなければ始まらないと思い、県農業総合試験場の実習生として1年間技術の習得に励みました。かんきつ栽培の基礎から、試験場ならではの最新の技術に触れることで、新技術を積極的に取り入れていく姿勢の礎が築かれたようです。その後、当時東京都多摩市にあった農業者大学校に進学。全国から集まった農業経営を目指す同士とともにさらなる研鑽に励みました。思いを同じくするもの同士のつながりを深めるとともにその重要性を実感した3年間だったそうです。

しかし、農業者大学校卒業後、せめて両親が健在な間は、ほかの仕事もやってみようという思いから、農繁期は両親の農作業を手伝いつつ、運送業との二足のわらじをはき続けました。

その後、29歳の時、ご結婚を機に農業専従を決意されたそうです。

《これまでの過程》

### ミカンで食べていこう!

農業に専従するようになった当時、温州ミカンは価格が低迷していた時期でもあり、露地ミカンだけではなく、ハウスミカン、モモ、茶、水稻の栽培を行っていたそうです。また、露地の温州ミカンも、10月初旬収穫の極早生から、12月収穫の高糖系温州まで切れ目のない品種構成であったため、1年中農繁期で休みのない生活でした。そこで、経営の柱を露地の温州ミカンに絞ることにしました。

黒木地区は、八女地域のなかでも年間の気温が低く、生育は他地区よりも遅い。そのため、出荷時期の早さが売りでもある極早生温州は品質の向上が難しかった。逆に、貯蔵ミカンとして再度脚光を浴び始めた高糖系温州は、気温の低い黒木地区の気候にも適していたため、みかんも高糖系温州を中心としたものに変えていく決心をしました。

久木原さんは、新たな技術の取り入れにも積極的です。農業総合試験場での実習生時代に研究されていたシートマルチ栽培による高品質化を地域でいち早く取り組み高品質なミカンを作り続けています。また同様に研究の進んでいたわい性台木「ヒリュウ」を用いた低樹高栽培を取り入れ、作業の省力化を図り、収穫を少しでも楽にできるように取り組んでいます。



プロフィール

- 家族構成 / 父、母、本人、妻、子ども1人
- 前職 / 運送業
- 営農年数 / 約13年
- 従業員数 / (臨時雇用) 約200名(年間: 延べ人数)
- 耕作(経営)面積 / 3ha
- 販路 / JA共販

このような取り組みの姿勢から周りのミカン生産者も認める存在となり、若くしてかんきつ部会の役員に選出されました。自分の経営だけでなく、地域農業や、ミカン産地の重要な担い手としてこれからの活躍が期待されています。

《これからの展望》

### 産地とともに

産地の中でいち早く取り組んだ低樹高栽培に確かな感触を得た久木原さん。「省力化で得られた時間や労力を規模拡大に充てたい。自分が良いと思ったことは、周りの仲間に伝え、共により良いミカンづくりに取り組みたい。また、かんきつ部会の生産委員長、黒木支部長として高齢化が進んでいく産地をいかに維持し、発展させるか。その視点からも新たな取り組みを自ら実践し、産地全体に広めていくことで、ミカン生産者全体を活性化させたい。」と力強く語ってくれました。



### Good 成功のためのポイント

新たなことを常に探し、考えること、そして実際の経営・栽培に取り組んでいくことだと思います。また、農業は仲間と支えあうことも多いです。回りにいつでも語り合える先輩方や仲間がいたことがこれまでの支えとなっています。